

秋夜草紙の巻

三月

人井帯刀

同年九月の事

生涯又技持事

...

...

浪拾枝

...

石室廻り磨英

...

天保己年戲書

今候後物諸

寛政風の長小細代笠着く麻布衣冷服草履人胴礼

四瓶平小瓶筋年の十名は三々み廣く麻布衣小綿の端つ

とさしに春履色の提舞曲しちりりんしつとあぐさ

昔に成果うし新渡の紋菊毛の服絨何と云ふとてかま

やせん腰小紐きつた刀と佩き一寸見所の花かみし

枝冊湖珠と江の鶴の七層小同し貝細子又ハ腕色の上

お縁の頸目黄也今出舞様の柄をく踏踏物為腰

折返し一掃古名の道とて試合の道出来合病年肩
痛見を希の赤合まうともぬみか者入まらぬぬ
師匠達成後かゆ八文の小糸拾拾所使かんを配る
せぬもづの松も思ひれる親と達と天窓かゝる出洞か
うらぬぬ摺古場と憐んく人事の息子達末々君の
馬系く御用おまふらんとも良鳴やもせぬ御代群
似の洞おまふらんやと味線頭子の申さ何の誰友
めまはれ方おまふらん御匠かぬもつ時おまふらん
奥通より一寸迄版時かおも穀百文版群も奥持込の
おまふらんかぬの人とて徳利式と素漬

の先生の中及ぬ風情なり免許目録も賣も
りし間小合とも毎もかぬせり賣の松やはまら
袴や刀刃月利日く地食いお高じ古道具
物安賣の系統御全段お替の御の四文の駄馬たる
絶く之ま大進お有儀衣紋のひと掃古三洲を殿御
用人侍所人の醫師元上下ひつらの唐紙織神形頭巾
の利の風物漬自怪の物志しは川進受りて文物
連天下一同馬麻著り御植ひらけ飾り舟中も
は原うまひりまら月會夜會の膳籠植木を氣とり
く飯と根の巧者よの若お出話して買出

賣つての令は河をくやうらんを流の穴達り地獄原
の丸裸植を帯の苗まもつたるく踏ひあつて
表信子の心せん一茶蘇沈の溜溜法天城原の拂
我亦入直帳をく人多くいひはるる南無と極と
かゝる資板ももぬ小普請の人名高小水道具此
一流河術長堤^{チマ}が実者も洞より困るりと所と建ぬ
心用いひあつて自由の古去画いらう酒と音れく
災とらふも是れ津の敵極とる麻ふさうと銀
血小神道風古法服く之性小古と有程りかよは武生
の紙片買好事家かゝるこゝろ懐か見極や海門

極の極者と志似るお上を男道も替向内く地獄
令得つゝ粘の投籠二層の花をこくく人黒極秘
の邊封客大石丸もやうににひりもは丸の内上へ
していま位とよとめくれもかひの傳やうと
令とらふ取るもの之集の既公用方且那も直
こゝぬい極と唱咄ふれくまふ大の朝の月とけく
おふ極とこくくこふうとた并んささは是れ奇極
祐常の彫りや由りて親父の茶煎湯の如腰かれ
ぬ竹とりのまたいや別と俄とまふもは極と坊
多ますつゝつゝたまふれく海山^口まふとと

こと取らば世ぬ息と心苦しと鬼角女と今世
しや尿骨行りて学者とやせ社絶ぬ汝御
師道何れも口役小立るゆかちの袋大の鞘小流
師代の口持渡若位といせぬ神と名列人の長難読
于一ふくはまら鹿の来ぬ内と来ぬぬ

立身深進丸

一名出世薬と云

大包令百あ
中包令百あ
小包令拾あ

此薬は清相小用ひて功徳有り妙くもと一家智後又薬

或は小普徳入るに於て退屈せしむを極く善く清くし
るふと底小い中の湯に小包を煮りて用之ぬ一早
良切業力と云しぬ神

一 何れもく福列何れもく此等と成てはよのそくの中包と
用ひ折て何候見也とて相違なく音相相續と一
必直き内小切能取進痛氣印後むはる一

一 惣して意 誠意對家かきんて何と年席法
小及しつて心願するにせしめはまや中うか
場に出るに勸まらる人々の出世と夢度小心地
大ふくは或は疴積ふく志進る一 誠意對家と云

古風 異風 藝道 理屈 高慢

困窮 各坊 出嫌 痲癩

一 存藥丹の内の世く口伝可成随ふ心子廣く
一 宿心野心無事を以て紙を要し記す

文化年中

吹積

後

英令齋

石 奥 石 奥

石 奥 弘 所 自 記

表小橋門加ふ有女庫

天保四年

圓滿院萬代宮二年寺清入寺清行紙

六門 新也 同心 同心 同心

和光拂

六門 新也 同心 同心 同心

與力

恭願殿上人

丹波頼水

岩倉人童

與力